

## 国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇高等学校  
教諭 〇〇 〇〇

1 日 時 平成23年11月〇日(〇)

2 科目等 現代文(使用教科書:第一学習社『改訂版 現代文』)

3 学年・組 第2学年〇組

### 4 指導事項(単元の目標)

○ 現代文 3 内容 イ エ

イ 文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。

エ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえること。

5 単元名 詩「永訣の朝」

### 6 単元の目標を達成させるための言語活動

○ 自分で設定した課題を探究し、その成果を発表したり報告書などにまとめたりすること。

### 7 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○ 詩や資料をくり返し読んだり、他者の発表を聞いたりして、作者の人物像や主題について理解しようとしている。	○ 詩や資料から読み取れることと作品や作者の背景などを重ね合わせて、感じたことや理解したことを意見文で客観的に表現している。	○ 詩特有の表現を理解した上で、作者の人物像や主題に結びつくように意見文に引用している。

### 8 単元に関して

○ 生徒の状況

- ・ 文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと：4月当初から、折に触れて俳句の鑑賞に取り組み、指示された箇所の内容について想像できることを自分の言葉で書く、ということが続けてきた。また、その鑑賞をプリントにまとめ、たとえ個人が自由に想像したとしても、概ねいくつかの鑑賞に分類されることを示し、俳句でも客観的な読み取りが可能であることを伝えてきた。その結果、多くの生徒から俳句に対する抵抗感がなくなり、楽しんで鑑賞をすることができるようになってきた。また、小説において、登場人物の心情を読み取る際にも、俳句の鑑賞で得た力が発揮される場面が出てきた。今回扱う近代詩は、同じ韻文でも俳句に比べて長さがあり、また時代背景や作者の置かれた状況が作品に大きく関わってくるので、鑑賞するにあたって、いかにポイントをしぼるかなどの意識づけが必要である。

- ・ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえること：同じ語句でも詩の中で使われた場合、独自の意味合いをもったり、詩のイメージをふくらませる役割をもったりすることがあるが、そのことを意識して読み取るという経験は少ない。
- ・ 目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して、進んで表現すること：文学的文章や韻文の指示された箇所について感じたことや理解したことを、短い文章で自分なりに表現することはできる。

#### ○ 教材の価値

- ・ 文学的文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと：宮沢賢治の作品としては、小学校5年次に「注文の多い料理店」を学習している生徒が多い。また、同じく童話の「銀河鉄道の夜」を読んだことのある生徒もいると思われる。小説だけでなく、小学校6年次には宮沢賢治の生涯について（「宮沢賢治」）、中学校1年次には賢治のものの見方・考え方について（「光と風からもらった贈り物」）書かれた文章も読んでいる。このように、賢治は生徒たちにとって身近な文学者の一人であり、その生き方についてもある程度の知識をもっている人物である。その賢治が、妹トシとともに仏教、特に弥勒信仰に傾倒していたこと、トシが24歳の若さで結核で亡くなったことなどにも触れながら、作者の背景を知り、そのことを考慮した上で味わうと、作者の人物像や主題について考えることができるため、適切な教材であるといえる。
- ・ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえること：方言などの使用はあるものの、それ以外の言葉の一つひとつは平易であるので、それが詩の中で使われた場合にどのような意味をもち、また詩のイメージをふくらませる役割を果たすかについて知るには適した教材であるといえる。
- ・ 目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して、進んで表現すること：弥勒信仰のことや妹トシのことなど、詩そのものだけでは読み取れない部分があるので、それら背景をも考慮に入れた上で、詩の言葉を引用するなどして客観的な意見文を書くのに適した教材であるといえる。

### 9 単元の目標を達成させるための指導の工夫

- 詩を味わうために：まず初発の感想をもたせ、次に詩の背景を知った上での感想をもたせる。
- 詩の語句をとらえるために：いくつかの表現を示し、詩の中での意味あるいはイメージについて説明する。また意見文を書く際には詩の語句を引用し、言葉に着目した読み取りができるようにする。
- 意見文を深めるために：宮沢賢治の生涯やものの見方・考え方について書かれた既習の文章を準備し、「永訣の朝」と重ね読みさせて、ポイントをしばって鑑賞できるようにする。また、他者の読み取りをまとめたプリントを配付し、多様な意見に触れることができるようにする。

## 10 単元の学習と評価の計画（全4時間）

次	時	学習活動	評価の観点			評価規準 [評価方法]
			国語 への 関心 ・意 欲・ 態度	読 む 能 力	言語 につ いて の知 識・理 解・技 能	
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮沢賢治について知っていることを確認する。</li> <li>範読（着語付き）を聞き、感想をもつ。</li> <li>詩の背景を知る。</li> <li>既習の文章を読み、宮澤賢治の人物像を考える。</li> </ul>	○		○	作者や詩の背景について、知識として知り、また詩や文章から読み取ろうとしている。[行動観察・発言・プリント・ノート]
二	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>詩から宮沢賢治の人物像が感じられる箇所をさがし、その人物像を固める。</li> <li>その他、気になる箇所について考える。</li> </ul>		○	○	第1時で学習した文章を読んで考えた人物像を参考に、詩から作者の人物像が感じられる箇所を客観的にさがし、人物像を考えている。[プリント]
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2時までの読み取りを深め、宮沢賢治の人物像を中心に据えた意見文を書く。</li> </ul>		○	○	詩の背景をふまえ、また他者が読み取った作者の人物像をまとめたプリントを参考にしながら、意見文を書いている。[意見文]
三	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3時の意見文をもとに、宮沢賢治の人物像等について発表する。また、自分の意見文と比較しながら発表を聞く。</li> <li>発表を聞いた上で人物像等について意見を述べ合い、作品の主題につなげる。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>本 時</b></p>		○		自分のとらえた作者の人物像に他者のとらえたもの、さらに詩の背景をふまえて主題をまとめている。[行動観察・ワークシート・発言・ノート]

### 11 本時の目標

- 詩から読み取った宮沢賢治の人物像について、他者の発表を参考にして、自分の捉えた賢治の人物像について考えを深め、主題を考えることができる。

### 12 本時の目標を達成するための言語活動

- 他者の発表を聞き、自分の捉えた宮沢賢治の人物像と比較した上で、自分の考えをまとめること。

### 13 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準 [評価方法]
確認 意欲付け	1 学習課題を知る。		
<b>他者の発表と自分の意見文を比較し、主題をつかもう。</b>			
展開	<p>2 発表の流れと発表を聞く姿勢を知る。</p> <p>3 発表する。また、発表を聞く。 ・3人の発表者が意見文をもとに宮沢賢治の人物像等について述べる。他の生徒は各自のものと比較しながら聞く。</p> <p>4 意見を述べる。 ・発表を聞いて、新たな視点を得た部分について等数人が意見を述べる。</p> <p>5 主題をまとめる。 ・3人の発表やその後の意見をもとに、主題について考え、発表し、まとめていく。</p>	<p>・意見文をもとに3人が発表すること、その後意見を述べるため各自のものと比較して聞くことを確認する。</p> <p>・発表者には、意見文を読み上げるだけに終わらないよう事前に指導する。</p> <p>・ワークシートを利用しながら、発表から新たな視点が得られないか意識して聞くよう指示する。</p> <p>・各自の人物像等と比較して、どこがどのように異なるかを述べるよう指示する。</p> <p>・詩の背景を再確認した上で考えるよう指示する。</p>	
日常化 一般化	6 学習をまとめる。 ・背景を考慮に入れた上で、詩から宮沢賢治の人物像や主題を読み取ることができたかどうか、自己評価する。	<p>・詩の背景を知り、作者の他の作品とも重ね合わせながら詩を読むという方法を、今後も活用してほしいことを伝える。</p> <p><b>C:</b>他者が読み取った作者の人物像をまとめたプリントやワークシートを確認させ、詩の読み取り方を再認識させる。</p>	<p><b>A:</b>自分のとらえた作者の人物像に他者のとらえたものを2つ以上、さらに詩の背景をふまえて主題をまとめている。</p> <p><b>B:</b>自分のとらえた作者の人物像に他者のとらえたもの、さらに詩の背景をふまえて主題をまとめている。[行動観察・ワークシート・発言・ノート]</p>